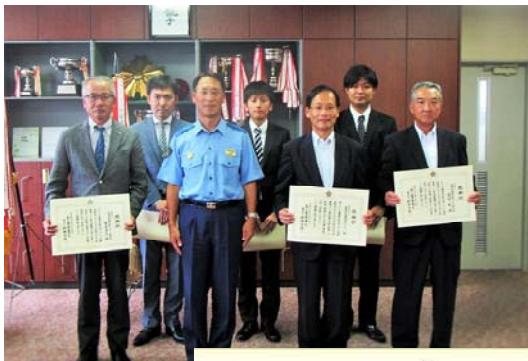


行方不明者水中捜索について

1. 経緯と成果

島根県松江市内で平成24年9月に発生した“乗用車と共に行方不明になった女性”的捜索について島根県警から調査依頼があり、当センター長崎支所所有の高性能水中音波探査機（サイドスキャンソナー）のうち国内唯一の「ハイドロスキャン」を使用した漁場調査技術の活用により、平成27年8月4日大橋川にて調査開始後短時間で川底で発見するに至り、技術力の高さと調査員のチーム力が好結果をもたらした社会貢献として高く評価され当センター及び関係者5名に松江警察署長から感謝状が贈呈されました。



【感謝状授与】



2. 使用機器の紹介

この度使用した「サイドスキャンソナー」は、平成16年度から計画的に導入した異なる機能を持つ4台のうち、平成24度に導入した「ハイドロスキャン」と呼ばれる可搬性に優れ、内湾・浅海域における超精密探査が可能な機種であります。

「サイドスキャンソナー」は、海底面の全体的な状況・底質分布の把握・構造物の位置特定などに最適な観測機器で、当センター長崎支所

(一社) 水産土木建設技術センター

松江支所長 濱 村 稔

では国内の水産関係機関に先駆け平成16年度に米国 KLEIN 社製「System3000」を導入し、位置不明の大型魚礁、中層浮魚礁、マウンド礁、並型魚礁、沈船、天然礁、増殖礁、養殖場、定置網、藻場、防波堤、落下物など様々な対象物の状況確認に活用しており、海洋版GIS（地理情報システム）と機能を連動させています。



【ハイドロスキャン 使用実機】



【松江市内を流れる大橋川】

3. 今後の期待

従来から浅海域における海洋構造物の出来形管理等では、レッド測量、船上目視、箱メガネ、水中写真撮影などの管理点計測管理や、音響測深機などによる管理測線計測管理を併用しこれを行っています。今回使用した機器は、他のサイドスキャンソナーと比べ、センサー本体が障害物と接触しにくい構造となっていることも浅海域での優位性であり、「可搬性」、「精密性」や「面状計測」など、多くの点で優れている観測機器として、海洋構造物におけるCIM（Construction Infomation Modeling）など、今後の幅広い活用に大いに期待するものであります。